



夢想兵衛胡蝶物語前編

叁

~ 13
3096
3



門へ13
3096
巻 3

夢想兵衛胡蝶物語卷之三

東都

曲亭馬琴戲編

色慾園

色を乞來る所のなる。るれぬ何とて迷ふ。そといふはあが知し。さきを
梢の陽氣は蒸まき。春花さく小雛ふべし。花は草本の咲る。さきも亦
情慾の咲る。花らうて實を結び情合し。子を生じ。草本非情なれば。
花は相惹のど人。さきとてさく。故ゆりの。嗜慾の害なり。さきりて。さきと
え來るといふ。桃は三年して花さく。人も十六の。色情をいめて動と。さき
草本秋はあ。ハ凋落男女老と告ぐ。いろけあ。さきりて。さきりて。さきりて。
あ。さきハえ來るといふ。彼は化さ。さきりて。さきりて。さきりて。さきりて。
憎む。草本の咲る。憎む。それと愛し。暮る。惜む。騷客ハ詩歌を吟す。

古夢想天奇卷之三

昭和九年
七月二十四日
購求

の徳あり。帯屋の四十男。おせんは倒れ。梅枝が三百両。間も隔る。出村
の玉屋。玉は瑕あり。東金の下銀。金は縁あり。化野の尾花。八月の刀屋を
招く。愛護の若松。八千弱女。引る。浄瑠璃坂の十二段目。牛若皆鶴姫
の休。休あまは。堀河下る町の中程。お志ん。傳兵衛が賣居あり。形内
の明烏。あつと。さしとを告ぐ。れば。山寺の撞撞坊。さ。後朝。さ。九障
の。男を。廢ま。兄。弟。あ。ん。と。ける。媒。妁。用。ひ。ら。ま。ど。く。ん。奴。婦。ん
多し。恋の。湊の。繁。易。へ。ト。され。廿。四。丈。の。屋。臺。店。ま。ら。ふ。と。ふ。し。て。押。の。蔭
よ。ま。る。の。ふ。バ。我。武。者。の。買。食。類。より。先。へ。鼻。を。落。し。百。洞。あ。つ。た。三。ツ。の
大。鰻。以。月。の。朧。は。夜。を。ゆ。ぐ。ぐ。の。物。啖。の。向。え。ど。ぼ。ち。や。く。の。お。り。よ。う。と
岡。八。比。翼。鳥。の。吸。物。へ。煮。賣。酒。屋。ま。り。佐。用。媛。の。化。石。へ。珍。物。茶。屋。へ
り。玉。蜀。の。大。あ。む。夏。挑。の。あ。つ。と。顔。ひ。が。ま。由。毛。ふ。ん。山。出。て。前。を。押。へ

て。ま。ら。く。く。る。女。湯。込。め。て。乳。吞。子。を。ほ。せ。男。湯。う。透。て。生。豊。後。み。く
咽。喉。が。湯。の。西。此。の。と。ら。賣。由。さ。く。と。直。か。る。ぬ。い。ま。の。さ。ら。ま。草。の。夜。食
の。塊。り。程。胸。よ。つ。長。程。業。師。の。一。本。綱。渡。り。を。つ。け。時。次。合。ふ。り。と。ひ。し。の
既。札。あり。八。卦。置。の。十。二。燈。より。あ。ど。ひ。ね。つ。縁。終。は。相。生。の。判。断。あり。花。繡
の。名。家。書。判。の。切。ぶ。の。墨。色。う。考。へ。浮。気。の。指。切。髪。切。の。空。誓。文。よ
う。つ。て。件。の。ぞ。い。ん。バ。二。の。腕。へ。と。ま。る。灸。の。國。あ。は。あ。ん。三。の。糸。で。格。る。糠。袋
へ。掛。た。ら。う。紙。用。て。ま。る。田。之。の。固。藏。へ。冷。水。賣。の。砂。糖。より。た。り。る。娘。乃
お。ん。婆。の。蟻。の。と。ま。る。の。氏。の。皮。より。ま。く。支。消。の。と。る。夫。婦。喧。嘩。ハ。タ。ま。乃
花。火。より。り。り。く。婆。が。居。る。揚。弓。へ。引。込。の。番。網。より。た。り。る。の。は。蒲。洋。屋
の。女。房。敷。膚。で。も。り。く。團。子。焼。の。と。ま。る。團。子。鼻。稀。ま。れ。バ。會。日。の。植。木
へ。見。合。の。道。具。建。よ。つ。つ。は。朝。暮。り。の。関。帳。ハ。中。宿。よ。利。生。あり。お。乳。母。の



なつりも居るほど。つらく以るよ。この地の人気きく鼻の先智慧は
 て。進む紙まきども退くとまらば。敷金の女房ハる。母後まきとて亭
 主と尻は布地。かきを揚る仲人ハ。いまが揚まらざらば。汚情を棚へ
 あげ。男は餘人の身業あま。女は餘人の已惚あり。且まきとて。夕
 ぐり。去年の朋輩。さ春ハ夫婦とる。世帯ハ女房く先へりら。
 借残ハ子どもや。不沙汰なる。尻も結ぬ縁定め。死神の社改
 主在。首のまらぬ物前ハ。隨得寺の山ハ。終り。年中いざこざありと
 といども。是非の判別。さるりのる。道もぬきと憐がり。長夜ハ。缺
 り。男子と可愛がり。偽と飲んで。晦日の月と。ね誠とくまけ。と
 物ハ。花と。仏法ハ。弘ち。さるるる。沢ハ。儒道ハ。行ま。じ
 て。衆道終。冥利と。む。夫釋。雪山ハ。薪と。焦。衆生と。漸度せん

乃。孔子の陳蔡。糧を絶。道を弘んか為。これま。この國へ来て。其
 の病を救。む。日本の廣言。ゆ。の。浦嶋仙人の教訓ハ。さる。と。ち。死と
 きて。一紙の告文を。書。これを竹の。う。天祥山の菅丞相。さ。の。浦嶋
 崇徳院。家の棟ハ。高く。あ。風。一。紙。の
 切。雲。と。因。夢。想。兵。衛。これ。と。

馱。風。食。の。か。ひ。ぢ。ぬ。れ。や。

ね。こ。の。ま。が。子。葉。子。こ。め。ん。

と。口。吟。と。晩。茶。の。鮭。腹。を。う。う。務。ひ。る。人。を。ま。後。人。を。彼。告。文。を。拾。ひ。て。れ。が。
 夫。恋。の。病。と。つ。え。四。百。四。病。の。算。盤。と。思。案。の。外。の。難。病。あ。て。療。治。施
 易。の。後。昔。黃。帝。と。素。女。同。く。妙。論。一。篇。を。著。釋。氏。慈。恩。の
 穴。と。塞。比。五。戒。を。持。つ。漢。武。帝。の。返。魂。香。ハ。結。々。の。ま。と。種。ま。て。羅

公遠が貴妃陽の二番煎じの功あり。石雄の風と見よ。薬ちがひ松浦の石茶の餘毒の残る男女哀暮の骨がらみの皮肉の腐縁とあり。親類の薫茶のついでにその験あり。又母の吸ふべ血で血をあぐも愈む。これ八年か茶よれど病ひ劇し死時八年をすむ。現分魁を投て當分の居所よむつれ百年の命をり。力のふして干日寺の土とあり。宣悲しりらむ。宣痛しりらむ。予が家幸よ家方の良茶あり。それらの難病を救へべ。但薬ハ調進よ及び。見脈を診て病原を論じると死ハ眼中春を生ぜり。忽地感の雲霧て了簡臍の下よあつた魂入りりつて。その効恰神の如し。病氣平愈の後との人も。毎朝仁義五常湯は堪忍五兩を加へ。絶び服用し。餘毒を補ひるべ。親子下りのさ合なり。

とぞ記しける。つづくの浦でも。慾と志ぬりのあり。施し療治とあは。利ぬさる。損のやぬりあり。昔より。吾とも悪とも。けのつるぬ。疾病と。あり。り。人のえとを。迷ひの雲か。是る。このや。やん。さ。でも。ある。ま。いと。小。る。簡。の。あ。り。の。朝。う。ら。後。志。兵。衛。が。出。張。へ。結。り。ま。は。ん。と。ん。ける。し。の。り。の。も。人。を。よ。め。れ。ま。う。ろ。て。彼。も。行。り。れ。も。あ。う。と。次。分。は。繁。昌。て。入。り。ろ。う。れ。由。ら。ば。徳。家。の。山。寺。鏡。法。は。耐。り。ど。く。人。を。耳。を。側。て。聴。き。ま。さ。ん。氣。の。蒲。燒。屋。の。息。子。内。の。愛。居。が。高。く。な。る。て。も。さ。ら。後。中。の。難。症。あ。ら。け。酒。屋。の。め。も。入。燒。燐。か。ら。死。て。出。る。の。別。の。と。い。ひ。疳。積。あり。さ。ら。び。鮎。を。食。ふ。と。腹。の。大。き。く。な。る。と。い。ひ。娘。あり。裾。籠。は。あ。く。ま。さ。く。さ。う。く。ま。さ。く。も。甚。く。あ。り。それ。の。あ。ら。む。の。日。の。一。番。ハ。ま。さ。三。十。の。四。五。ッ。も。足。ら。ぬ。若。後。家。を。さ。ら。ろ。と。向。く。鼻。を。ら。通。つ。く。目。り。と。可。危。ら。く。小。矢。葉。の。稿。縮。緬。は。相。應。み。下。

思、黒彌子の幅廣帯を前でさすこと結びおめで憶せどさうり出するの事
 やりか素人めりごと。愛悲兵衛が高坐の何より膝行よりて。志とやう會釋
 一。このはち元來この國のものよあふべ。大日本山城國山崎の百姓何かが娘
 ありく夫の爲よ身と賣し。首尾の憂堪難勤の中は親夫ハ非業ふ死し
 予もよえ。身あふよりて。後の世を弟より外よとよむあり。西國順札を
 ろひし。るるのぬ旅路は紀の浦あり。九餘人の衆合。恥流されて色慾
 と。名もこの國へ思しれど。今このけも。それ夫へ多。標の寡婦。昔よ
 する杵屋が三笠。これと教てや。やよ。命を継棹よ。ま。住られぬ。柳
 世帯。是よりぬ。ある身ひと。も。ま。ぬ。おひハ。右々の空る。つり。死。伶。傳。人
 因果と多く。前。の。世。の。り。ま。ま。と。ね。バ。悲。ひ。ハ。ま。ま。と。神。由。仏。由。ら。め。し。と
 つと。歎。ハ。ち。と。境。曇。霞。ハ。ま。ま。と。晴。し。て。何。と。ま。ま。と。ま。ま。と。意。痛。を

る。ねど。え。ハ。意。こ。ら。ハ。身。の。く。く。ら。ら。ん。お。ま。ま。り。ナ。ス。由。る。か。と。委。細。の
 訳。ハ。あ。ら。う。ら。み。と。紫。服。紗。は。色。一。冊。の。奉。と。う。出。せ。バ。夢。想。兵。衛。受。と。う
 て。假。名。手。奉。忠。臣。義。と。外。顔。と。洗。て。う。ら。兵。隊。さ。の。り。ト。ハ。臨。谷。の。浪
 人。早。野。堪。平。と。う。う。あ。ふ。し。お。う。と。よ。で。ご。り。欽。と。同。て。ま。り。さ。う。備。さ。
 恥。し。の。り。と。の。時。が。あ。ま。る。果。で。ご。り。ま。ま。と。ニ。テ。ま。ま。の。お。め。女。郎。が。今。ハ
 せ。を。と。規。じ。る。が。ら。意。の。病。の。療。治。う。け。あ。何。と。く。ま。ま。と。と。同。く。お
 同。ち。う。く。小。膝。と。よ。め。され。ば。あ。の。り。で。ご。り。ま。ま。と。病。ハ。原。を。補。わ。バ。全。快。ハ
 せ。ぬ。と。や。ら。ま。ま。ハ。病。根。を。や。ら。ま。ま。推。量。ま。ま。と。下。さ。り。ま。せ。り。と。も。夫
 ハ。こ。う。美。の。候。り。殿。の。お。ん。大。る。よ。居。あ。ハ。せ。と。最。期。の。供。よ。後。と。ハ。い。ハ。訳。も
 う。れ。越。度。も。れ。と。忠。義。の。志。ハ。人。あ。の。務。ま。浪。く。の。身。の。ま。り。あ。く。貧。ハ
 へ。し。よ。ま。ま。と。と。石。碑。建。立。の。金。さ。の。て。款。討。の。連。判。は。か。り。ま。ま。と。の

色を好む人あり。母を大星氏の祇園町あり。むねは。仇人
よむ放さるん計畧るるげと。席へるもくの柱女ありね。人さるるの
才ありて。君が一夜の情少。妻が百年の命も惜めど。とて。祐成が為
よ。尼とあり。こそ。吾光寺へ。赴たさるるべし。これの義理とよくも考
ふ。世は。君又の仇と。冤ふりの。動も。これ。色慾。又。志と。殺と。とり。又
あり。や。奉意と。遂るとも。ゆくて。玉。服。あるが。ど。を。恨む。と。そ
亦。その。の。又。一。兵。衛。どの。へ。百姓。あり。え。あげ。人物。と。さ。び。と。り
の。娘。と。賣。て。も。賢。は。忠。義。を。立。せ。よ。と。後。又。どの。へ。あ。り。と。も。母
ゆ。ゆ。く。ゆ。せ。れ。と。去。る。が。女。あり。三。枝。の。道。あり。家。あり。つ。て。又。り
後。ひ。人。と。適。て。夫。と。後。ひ。夫。死。して。子。と。後。ひ。是。所。謂。三。枝。と。り。か
ハ。既。又。堪。平。と。い。ふ。夫。あり。その。別。係。ハ。又。母。と。告。と。開。隙。と。攢。牆。と。踰。る。

傳ひ合るるとも。又母と。又。許。と。妻。と。れば。よく。夫。と。従。入。べし。ま。う。も。よ
身。賣。の。り。夫。と。終。合。し。て。納。め。り。身。賣。と。て。その。り。深。く。匿。し。親子。三
人。内。に。極。め。り。真。実。不。似。る。不。実。る。り。畢。竟。一。文。字。屋。才。兵。衛。と。伴
る。出。合。う。ら。お。く。夫。が。ま。う。つ。れ。ば。さ。よ。け。告。げ。て。ま。る。と。れ。ハ。身。を。こ。か
す。よ。も。の。罪。脱。は。じ。これ。の。義。理。と。れ。悉。ひ。あ。り。匿。し。て。よ。れ。と。あり。あ。れ。と
あり。人。は。醋。と。を。ま。し。と。れ。つ。か。家。は。る。を。あ。り。隣。で。貫。ふ。て。その。人。は。遣。さ。り
る。の。め。て。正。直。實。儀。と。い。り。の。め。り。の。め。り。凡。忠。孝。信。義。の。為。子。と。賣。妻。を。賣
り。の。會。女。が。敵。と。遂。と。れ。子。と。捨。て。好。の。子。と。伴。ひ。易。才。が。その。子。と。義。美。は
あ。て。極。と。よ。め。と。同。日。の。苦。節。と。皆。名。聞。と。好。む。の。或。感。ひ。じ。り。子。と
婿。の。子。と。い。づ。る。親。に。至。親。と。捨。て。人情。あり。又。以。て。子。を。殺。し。て。媚。を
主。君。と。求。り。の。虎。狼。の。り。お。を。け。彼。の。子。と。愛。せ。と。争。う。織。と。君。と。お。中。ん。

されば賢の乃よ子と賣ると死ハ賢は養ありといふとも子の乃よ不慈の記
 るる君の乃よ妻と賣ると死ハ君は忠ありといふとも妻の乃よ不仁の夫あり
 門を解て薪とほ井を塞で臼とるると一旦その用は尽るといふともこの乃よ死
 小あつ夫忠臣ハ孝子の門は出づ烈女ハ清き原の家は適勇將の下は弱
 卒あり仁美の御あり盗賊あり子よ慈するの乃よ真の義士あり夫
 婦の礼るの乃よ真の忠臣あり夫の甘ふて積悪の乃よ老てやうやくよ
 その悪奴覚ると死ハ金浅せりて闇魔の廳の帳面と消せんとせひ或も
 布施一或ハ堂塔と建立し手の内せ入まは媚て未だの悪奴買んとあふ
 りの由往くありさうと愚癡の至り早野氏が百兩の金で調進せむ以前
 盗奪の罪と贖ふは是るるんと死ハ世の中も大くさうらの了簡ありて
 現とそりちがめされよといふよ一兵衛とあふ祇園町あり五十金の身價を受

夜をこめてひとり山崎へゆきし一由美は忽地禍にあふりよや金を所
 持せども危れとあるのり印より夜行せむて五十兩とあふ大金を懐
 きて野道山坂の嫌ひあるひとりさうさうとゆきし石を抱て深き淵に
 臨むより危り定九郎は出會むかあつて手負猪とあつて火急
 の金ありともるると嘆つて行むるこれづらうと招く禍あり女見を賣
 する不仁の金忽地身を殺ぐ又とるるぬ豈おそれざらんやその身既よ定
 九郎が又よ縫止るるがうり脱るるりやとくまんざり足透される懐の金
 を押隠しこれハ昼食の握り娘がことよ返魂丹でござるるぞ勸解し
 おろつてあつて小見ども欺さざりやうれと死ハ賊よる虎もあつべし彼
 既よ金よあり争賂話とまへ馬の怒ると死ハ騎べくは雷合
 犬ハびびびり踏る馬は鞭とびり踏る嚙む犬を喰んとされば却



天竺
天竺
天竺
今

天竺
今

手を傷くる。慮あるりの。これと近づき。昔漢朝の陳平が楚より逃て。僕
よ仕んとせしと。楚の兵は追まんとす。殊る道と急死。夜野渡り
さうりて。船を借り向へて。二人の渡守に強盗あり。この夜網を
張て。舟ももがると。待たるべし。陳平が船を借るといふを。竊に飲び。さう
よく。中流へ漕せ。矢度と殺えと。先きを。陳平を。猪とく。
二人の渡守に對ひ。それゆゑ。水濱にあり。船を漕と。くく。さうり。
おのく。体も。おのく。漕べ。といひ。衣服を脱ぎ。赤裸と
る。船を漕。盗賊等。形容を。さう。さう。の懐に金
あり。ぬる。奴を殺し。何せん。忽地。予。絶。終。向
忽へ送。陳平。九死と。一生を保ち。衣服を。捨。岸へ
跳り上。幸。遂。漢の高祖。仕。官位。左丞。相。ま

の。亦宗祇法師。行御。山。越。盗賊あり。宗祇
が。生。金。前。賣。と。林の中
去。右。又。引。左。宗祇を。既。髻を。剪。と。世
と。宗祇。騒。け。る。帝の。髻。由。塵の
う。世。捨。と。孫。盗賊。甘。放。林の中へ
入。彼。陳平。赤。裸。物。示。賊。予。絶
を。臨。機。妙。計。又。宗祇。狂。歌。詠。賊。難。脱。危
の。盗賊。歌。と。映。と。放。と。関。非。心。非。佛。の。頌。あ。も
詩人。遇。獻。と。る。れ。と。の。詩。と。人。詩。と。贈。大。な。む。と
宗祇。の。寓。言。と。ん。陳平。才。と。と。賊。と。あ。て。衣服を
失。況。と。の。餘。の。凡人。の。物。と。命。と。雨。と。全。と。山。中。は。賊

それゆゑの事あるれど二十は是れ娘小浪よ。後家とてこれを親夫の
菩提を弔ん。弔せん。旅するも由敷。捨つれば世は存命ては慾
國へ伶伴との目盲は鏡の門らびひ。これとて人ば貞女やど。形かふりの入は
る國の娘子とてかま。ま。年もゆくぬら。いづづの志の死とて有得
る家より標致を弔すれ。あままた支度金をさす。その身の栄花と
いふは及ばど。後家の親を引さすて左團でさす。世の往く
るはひび。天道滅を照らす。依估貝負のたぬ。苦とありハ
そよく。氣も涙ど。り。氣の茶もある。調合をされて。さす。と
志とす。物もれば。小浪もさす。手とつ。母前の宣ふ。そす。り
た。後家よる。い。豫て。受。の。る。れ。ど。さ。が。為。又。殿。と。い。ひ。力。か
えん。外。あ。る。人。國。へ。つ。て。さ。す。ま。ま。さ。う。い。ひ。状。が。あ。ら。ふ。と。も。外。の

男せりつ。このや。ちくと。あひつ。あ。一生。後。家。で。つ。と。の。快。楽。ん。で。居。ま。す。と
よ。あ。も。ま。い。よ。き。慾。國。へ。吹。流。し。の。ひ。の。風。の。神。の。あ。ま。り。胸。慾。世。は。貞。女
と。い。ひ。の。の。龍。神。や。風。の。神。の。情。を。さ。す。あ。ま。り。の。い。ひ。状。を。受。て。惑。ひ。か。ま。ね。る。と
る。療。治。る。さ。れ。て。下。さ。り。ま。せ。哀。の。病。に。や。る。け。ま。と。も。夫。と。あ。ま。ら。う。い。つ
え。と。そ。ら。が。ひ。の。の。の。あ。ま。り。は。お。ま。ま。さ。す。る。中。口。の。う。ら。谷。の。戸。あ。け。て。夢。の。枯。木
よ。宿。の。風。情。の。り。夢。想。兵。衛。う。ち。笑。ま。す。い。や。く。そ。ら。の。病。症。も。哀。の。病
の。困。ど。の。の。や。の。祝。又。加。古。川。氏。の。の。あ。の。い。ろ。く。す。あ。ん。の。あ。る。症。も。り。い。か
る。死。ま。す。ま。り。人。る。ま。は。それ。の。ま。づ。それ。の。の。の。病。症。を。の。い。ひ。づ。し。
貞。女。と。と。自。誇。ま。す。と。る。ん。不。結。髪。の。夫。で。も。ま。ど。婚。姻。も。さ。り。結。ぶ。ら
よ。女子。の。あ。ま。り。と。び。ろ。つ。の。の。の。淫。婦。と。あ。る。あ。の。ま。ど。既。又。桃。井。殿。の。屋
敷。あ。り。響。應。司。の。の。の。よ。つ。死。力。か。使。者。よ。ま。せ。と。ま。す。と。死。の。自。分。甚



三つめ

ちんちん



清

ゆんちん

アクリ



夫らぬ吾們^{わがらぬ} 怨^{うらみ}をさるる^{さるる}とく^{とく} 恥^ちをあらねば人^{ひと}あはく^{あはく}人の数^{かず}あや
 入^いりか^かに^に怨^{うらみ}く^くの^のゆ^ゆと^と療^{りょう}治^ちを^を受^うて^て其^{その}病^{びょう}の^の根^ねを^を断^きて^ても^もあ^ある^ると^とば
 廿五^{にじゅうご}の^の曉^{あけ}を^を一^{いち}羽^はと^とる^る定^{じやう}業^{ぎやう}も^も世^せ間^{かん}の^のま^まに^に五^ご六^{ろく}十^{じゅう}ま^まに^に生^な延^{えん}る^るの^のゆ^ゆ
 あ^あら^らず^ず。有^あら^らず^ずと^とす^す。憂^{うれ}ひ^ひ兵^{へい}衛^ゑを^を伏^ふせ^せ。隨^{ずい}喜^き渴^{かく}仰^{やう}の^の声^{こゑ}
 耳^{みみ}は^は満^みち^ち。あ^あら^らず^ずの^の鳴^なも^も止^とま^まら^らず^ず。憂^{うれ}ひ^ひ兵^{へい}衛^ゑの^の鼻^{はな}高^{たか}く^く。と^とひ^ひと^とつ^つせ^せる^るも^も
 ず^ず。それ^{それ}少^{せう}年^{ねん}固^こみ^みの^の紙^し書^{しょ}の^の上^{うへ}の^のり^りに^にな^なる^るも^も知^ちら^らず^ず。任^{にん}ぜ^ぜら^らず^ず。不^ふ
 教^{きやう}を^をあ^あら^らず^ずの^の格^{かく}よ^よく^く教^{きやう}訓^{くん}を^をあ^あら^らず^ず。天^{てん}晴^{せい}孝^{かう}行^{かう}の^の人^{ひと}物^{ぶつ}も^もあ^あら^らず^ず
 らぬ^{らぬ}ま^まに^にと^とく^くし^しよ^よ。と^とく^く残^{ざん}念^{ねん}千^{せん}萬^{まん}と^とす^す。聖^{せい}人^{にん}も^もあ^あら^らず^ず。ま^まに^にと^とく^くし^し
 して^{して}。坐^ざ中^{ちゆう}を^を信^{しん}と^とえ^えま^まら^らず^ず。忽^{たち}地^ち二^に十^{じゅう}む^むろ^ろろ^ろ大^{だい}男^{なん}人^{にん}情^{じやう}屋^{えつ}
 利^り口^{こう}を^をと^と名^な告^こて^て。む^むろ^ろ小^{せう}袴^{かほ}巻^ま諸^{しよ}肌^み脱^{だつ}ぎ^ぎ。年^{ねん}少^{せう}の^の白^{はく}又^{また}を^を引^ひ提^{てい}群^{ぐん}集^{じつ}
 の中^{ちゆう}より^{より}跳^{たう}り^り出^でる^る。憂^{うれ}ひ^ひ兵^{へい}衛^ゑと^と睜^{しやう}つ^つけ^け。その^{その}生^{なま}毛^け唐^{たう}人^{にん}奴^ぬと^とす^す。ま^まに^にと^とく^くし^し

語^ごを^を吐^つて^て人^{ひと}を^を惑^{まど}は^はす^す。古^こ今^{こん}を^を双^{さう}の^の癡^ち者^{しや}る^る。か^かぬ^ぬが^がし^しと^とく^く
 世^せ界^{かい}の^の男^{なん}女^{にょ}悉^{しつ}眞^{しん}實^{じつ}廉^{れん}直^{ちく}の^の人^{ひと}と^とら^らず^ず。一^{いち}日^{じつ}の^の狂^{きやう}言^{げん}を^を納^なめ^めず^ず。
 少^{せう}も^も老^{らう}ら^らず^ず。樂^{らく}も^も哀^{あい}も^もあ^あら^らず^ず。抑^{おさ}へ^への^の圓^{えん}ハ^ハ開^{かい}闢^{ひく}し^し。あ^あら^らず^ず
 意^い慾^{よく}を^を宗^{しゆう}と^とす^す。衣^い服^{ふく}も^も新^{しん}し^しと^とす^す。紅^{かう}白^{はく}彩^{さい}も^も化^け國^{こく}と^とす^す。野^や賣^{ばい}
 賣^{ばい}を^を其^{その}陰^{いん}を^を蒙^{もう}る^るの^の少^{せう}く^くと^とす^す。一^{いち}生^{せい}後^ご家^けと^とす^す。あ^あら^らず^ず
 る^るけ^けに^に親^{しん}の^の厄^{やく}ぬ^ぬら^らず^ず。娘^{むすめ}子^こご^ごも^もひ^ひと^とと^とす^す。挿^さぐ^ぐら^らず^ず
 親^{おや}の^の體^{たい}を^を嚼^くる^るの^のゆ^ゆと^とす^す。恥^ちを^をと^とす^す。恥^ちを^をと^とす^す。眞^{しん}女^{にょ}の^のけ^けに^に淫^{いん}
 婦^ふと^と名^なつ^つる^るも^もあ^あら^らず^ず。夫^{つま}の^の名^なと^とす^す。常^{じやう}の^の名^なと^とす^す。道^{みち}乃^の
 道^{みち}と^とす^す。常^{じやう}の^の道^{みち}も^もあ^あら^らず^ず。畢^{ひつ}竟^{じやう}仁^{にん}義^ぎの^の忠^{ちゆう}孝^{かう}の^のと^と名^なと^とす^す。つ^つけ^けら^らず^ず
 ハ^ハ聖^{せい}人^{にん}の^の私^しも^もあ^あら^らず^ず。天^{てん}の^のお^おの^のづ^づら^ら高^{たか}く^く。地^ちの^のお^おの^のづ^づら^ら低^ひく^く。ま^まに^にと^とく^くし^し
 みる^{みる}。袷^{あは}と^と左^さも^もあ^あら^らず^ず。髪^{かみ}を^をあ^あら^らず^ず。ま^まに^にと^とく^くし^し。意^い慾^{よく}國^{こく}の^の人^{ひと}も^もあ^あら^らず^ず

ぼとて兄弟（兄弟）とら夫婦（夫婦）とらうり（うり）の（の）由（由）る（る）。色の（の）為（為）は（は）餓（餓）て（て）死（死）する（る）の（の）由（由）
 ろ（る）。男（男）色（色）ハ倫（倫）外（外）の（の）交（交）る（る）事（事）也（也）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。
 あり。地獄（地獄）の（の）色（色）ハ極（極）楽（楽）也（也）。柳（柳）ハ緑（緑）花（花）ハ紅（紅）の（の）いろ（いろ）。春（春）來（來）る（る）と（と）開（開）る（る）花（花）也（也）。
 ろ（る）。時（時）來（來）る（る）情（情）の（の）動（動）る（る）男（男）女（女）ハ（ハ）鳥（鳥）の（の）春（春）媾（媾）合（合）ハ（ハ）陽（陽）也（也）。その
 萌（萌）と（と）草（草）木（木）と（と）共（共）み（み）と（と）ら（ら）ぬ（ぬ）。鳥（鳥）の（の）羽（羽）ハ（ハ）木（木）の（の）葉（葉）ハ（ハ）象（象）也（也）。猫（猫）の（の）正月（正月）ハ
 媾（媾）合（合）ハ（ハ）時（時）の（の）ち（ち）め（め）ハ（ハ）恋（恋）む（む）こ（こ）ら（ら）ぬ（ぬ）。猫（猫）の（の）暗（暗）ハ（ハ）十二（十二）時（時）を（を）辨（辨）む（む）。春（春）
 女（女）ハ（ハ）陽（陽）氣（氣）と（と）感（感）じ（じ）く（く）男（男）と（と）感（感）じ（じ）く（く）秋（秋）ハ（ハ）陰（陰）氣（氣）と（と）感（感）じ（じ）く（く）女（女）と（と）感（感）じ（じ）く（く）鹿（鹿）の（の）秋（秋）
 媾（媾）合（合）ハ（ハ）陰（陰）氣（氣）と（と）感（感）じ（じ）く（く）水（水）鳥（鳥）の（の）夏（夏）媾（媾）合（合）ハ（ハ）陽（陽）氣（氣）と（と）感（感）じ（じ）く（く）る（る）。席（席）
 交（交）は（は）月（月）ハ（ハ）暈（暈）あり（り）。陽（陽）の（の）陰（陰）と（と）犯（犯）す（す）鬼（鬼）の（の）牡（牡）と（と）越（越）え（え）バ（バ）必（必）ず（ず）孕（孕）む（む）。
 その（の）氣（氣）と（と）感（感）じ（じ）く（く）夫（夫）陽（陽）ハ（ハ）ひとり（り）ゆ（ゆ）り（り）陰（陰）ハ（ハ）ひとり（り）ま（ま）ず（ず）陰（陰）陽（陽）合（合）散（散）
 する（る）。四（四）時（時）移（移）る（る）ところ（り）。春（春）ハ（ハ）い（い）ま（ま）す（す）。夏（夏）ハ（ハ）猛（猛）く（く）。秋（秋）ハ（ハ）悲（悲）しく（く）。冬（冬）ハ

の（の）哀（哀）ハ（ハ）天（天）又（又）四（四）時（時）あ（あ）ま（ま）バ（バ）人（人）ハ（ハ）喜（喜）怒（怒）哀（哀）樂（樂）あり（り）。ま（ま）は（は）人（人）の（の）心（心）と（と）和（和）む（む）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。
 う（う）た（た）ら（ら）る（る）。釋（釋）氏（氏）ハ（ハ）の（の）心（心）と（と）和（和）む（む）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。
 由（由）る（る）身（身）中（中）の（の）餓（餓）鬼（鬼）の（の）心（心）。流（流）る（る）水（水）ハ（ハ）堰（堰）ると（と）も（も）。色（色）情（情）の（の）禁（禁）ト（ト）也（也）。お（お）妻（妻）子（子）
 ハ（ハ）衣（衣）服（服）の（の）心（心）。衣（衣）食（食）足（足）と（と）礼（礼）節（節）と（と）ある（る）と（と）あり（り）と（と）も（も）。礼（礼）讓（讓）酷（酷）し（し）け（け）ま（ま）バ（バ）人（人）
 和（和）む（む）。礼（礼）ハ（ハ）親（親）と（と）つ（つ）と（と）所（所）以（以）ハ（ハ）あ（あ）ま（ま）り（り）家（家）格（格）一（一）つ（つ）貫（貫）ふ（ふ）と（と）女（女）房（房）より（り）と（と）え（え）。
 一生（一生）を（を）ひ（ひ）ま（ま）げ（げ）る（る）あ（あ）の（の）あ（あ）ま（ま）り（り）。十（十）荷（荷）ハ（ハ）荷（荷）の（の）嫁（嫁）入（入）道（道）具（具）と（と）四（四）五（五）日（日）ま（ま）る（る）と（と）え（え）。
 運（運）ぶ（ぶ）と（と）も（も）。一（一）年（年）と（と）ひ（ひ）ま（ま）げ（げ）ぬ（ぬ）夫（夫）婦（婦）也（也）。且（且）有（有）用（用）ハ（ハ）子（子）を（を）母（母）の中（中）に（に）あり（り）と（と）え（え）。
 の（の）尾（尾）ハ（ハ）飛（飛）ぶ（ぶ）と（と）用（用）る（る）。あ（あ）る（る）と（と）も（も）。鳥（鳥）の（の）尾（尾）を（を）剪（剪）と（と）死（死）ハ（ハ）遠（遠）く（く）は（は）飛（飛）ぶ（ぶ）と（と）人（人）
 の（の）手（手）ハ（ハ）初（初）と（と）用（用）る（る）。あ（あ）る（る）と（と）も（も）。人（人）の（の）手（手）を（を）縛（縛）と（と）死（死）ハ（ハ）速（速）く（く）は（は）走（走）む（む）と（と）え（え）。
 と（と）り（り）と（と）これ（これ）を（を）見（見）ま（ま）る（る）目（目）前（前）の（の）理（理）ハ（ハ）死（死）外（外）の（の）理（理）也（也）。有（有）用（用）の（の）用（用）ハ（ハ）母（母）の（の）
 用（用）也（也）。舌（舌）ハ（ハ）柔（柔）る（る）と（と）も（も）。脱（脱）む（む）。齒（齒）ハ（ハ）堅（堅）け（け）と（と）も（も）。脱（脱）易（易）し（し）。り（り）齒（齒）の（の）脱（脱）

へ赴くは驚きを捨てる漁船あり。さよ至く爰に兵衛の忽地曉て横千
を拍色慾よのそ身を宴とよの國あり。釣さるるものるよ。爰のえんけ
とあるよ今たろとびも一艘の漁船ありて主るに彼浦嶋儼人か
強飲貪婪の二國への船せりて送りやぶ。と宣ひしは是るのじ。さうやくと
ひとり兵隊閃りと奪て獲と解とひく。不忠後や四方真闇よあつて
浦風颯と吹あり。船を忽地澳へ吐して去る。と箭より由をやく。
千里ゆくや。万里ゆくや。めつとむせうよ吹流さる。と一昼夜ありて
彼風をいめて軟る。酒の匂ひ芬くと。鼻の邊を通る筋強飲國の
大湊底抜の浦よ著より。

總評

道に達するのの道よろうて慈情を通ざるのの情をりて説く。

公道人情両あり難し。尚公道せりて論ぜれば人情と如何人情の
随に説けば公道と缺く。只理せりてこれを推と死の柱よ膠して。奉を
潤るがじ。夫みづるえむて彼をさる。みづるえむて彼を得る
もの。これ人のはるをゆくと。みづるえむと。得る人の適くは適て。
はづかすその適は適ざるの孔子に仁義と重と。盜跖に利欲と重と
を各ゆるすをせりて。そのゆるすを責む。相罵ると死の声の大なるもの
これ又勝り相聞入と死の猛りの必まづこれ又勝。彼が勝べうとざるをせりて
こまて勝りもの慾と重とを所以。こが勝べ死すをせりて。これ又勝る
もの。仁と重とを所以。浮薄の眼力。真の強弱とえむ。こが死す
まづ力の必まづ勝りもの。かのづる。強が正。没夫人妻けは天は勝。天定て
人は勝。天の弱死よあふ人の強さよあむ。寡の固よりて衆よ敵

づ。小の固よりて大の款一が。苟も情慾多れと死ハ。仁義由れ
 一勝を一條の箭へる角おさ。十條の箭ハおが。思愛とを慾
 と人人情の聚ふ所。人於縁けを山凹も人情の聚ふ所必濁る。
 水清けを魚住む人清りれば慾寡し。清き紙捨て濁るは
 安れを取て危きを樂む。そ紙りて濁るものハいよく濁り。危き
 といよく危し。既よその危き紙ある。知るといよく安き紙。紙の中
 にもる砂あり。泥の中にも刺る針あり。これを懼て言れりのを
 擇む。擇むと人よ於よ是くも。只その獨を慎むよ。

夢想兵衛胡蝶物語卷之三終



